

研修報告書（研修費）

令和 6 年 11 月 13 日

長久手市議会議長
木村 さ ゆ り 様

長久手市議会議員 大島令子

政務活動費を充てることができる経費の範囲の運用指針により次のとおり届け出ます。

年 月 日	令和 6 年 10 月 17 日（木）から 令和 6 年 10 月 18 日（金）までの 2 日間
研 修 先	第 86 回全国都市問題会議 （行程表は別表のとおり）
成 果	健康づくりとまちづくり～市民の一生に寄り添う都市政策～をテーマにした会議であった。会議の目ざす健康づくりの論点はこれまでの「健康づくり政策」を振り返り、今後の「健康づくり政策」、新たな時代の「健康づくりとまちづくり」を考え、これを人の健康から「都市の健康」に政策を発展させるという新たな視点を学んだ。（内容は別紙のとおり）
経 費	金 39,975 円（政務活動費対象経費） 金 39,975 円（全体経費） （明細は別添のとおり）
提 出 資 料	○研修先資料 ●領収書の写し ○ガソリン代支出記録、ルート表、ガソリン代領収書添付書（車で行った場合に限る。）

※研修を実施した後は議長に 1 カ月以内に提出するものとする。ただし、1 カ月以内が翌年度の 4 月 20 日を経過する場合は 20 日までとする。

※研修前後の調査研究については対象とできる。ただし、その場合は実施日の 2 週間前までに別紙様式第 1 号の「行政視察届（調査研究費）」に行程表を添付して議長に提出する。また、調査研究にかかる費用は、「調査研究費」の科目で整理する。

行程表

第86回全国都市問題会議

第1日目：令和6年10月17日（木）

藤が丘駅	→ 地下鉄	名古屋駅	→ 新幹線	姫路駅	→ 徒歩	アクリエ姫路 基調講演など	→ 徒歩	東横イン姫路駅新幹線南口 （宿泊）
	06：59発	07：28着	07：37発	09：14着		9:30～16:30		17:00着

第2日目：令和6年10月18日（金）

宿所	→ 徒歩	アクリエ姫路 パネルディスカッション	→ 徒歩	姫路駅	→ 新幹線	名古屋駅	→ 地下鉄	藤が丘駅
	9：00発	9:30～11:50			13:59発	15:19着	15：41発	16：09着
宿泊	東横イン姫路駅新幹線南口		姫路市南駅前9 7					

費用明細

地下鉄	藤が丘	⇔	名古屋	310円×2	=	620 円
新幹線	名古屋駅	⇔	姫路駅	18,270円	=	18,270 円
参加費						13,000 円
宿泊費						12,600 円
合計						44,490 円

令和6年11月13日

第86回全国都市問題会議報告書
健康づくりとまちづくり～市民の一生に寄り添う都市政策～

長久手市議会議長 木村さゆり 様

長久手市議会議員 大島令子

開催日：令和6年10月17日(木)～10月18日(金)

開催場所：兵庫県姫路市神屋町143-2

アクリエひめじ（姫路市文化コンベンションセンター）

1 基調講演

生命を捉えなおす一動的平衡の視点からー

生物学者／青山学院大学教授 福岡伸一 氏

2 主報告

市民の「LIFE」（命・くらし・一生）を守り支える姫路の健康づくりとまちづくり

兵庫県姫路市長 清元秀泰 氏

3 一般報告

生き物から学ぶ健康なまちづくり

筑波大学システム情報系教授 谷口 守 氏

都市そのものを健康にするまちづくり

～ストレスを軽減し、リフレッシュできるまちへ～

千葉県流山市長 井崎義治

IT/AI の健康分野への適用例

～姫路市の健康データ解析と歌唱による誤嚥予防～

兵庫県立大学副学長 畑 豊 氏

4 パネルディスカッション

健康づくりによるまちづくり

中央大学法学部教授 宮本太郎氏

心理社会面から見た、子どもの健康 高岡病院児童精神科医 三木崇弘氏

食を切り口とした1人1人の望む暮らしを支援する栄養パトロール事業

NPO 法人日本栄養パトネット理事長 奥村圭子氏

未来型「ゆい」で紡ぐ健康高原都市・茅野の構築 長野県茅野市長 今井 敦氏

「未病予防対策先進都市」をめざした「官民連携」「市民共創」のまちづくり

大阪府泉大津市長 南出賢一氏

第86回全国都市問題会議に参加して

(成 果)

開催のテーマは「健康づくりとまちづくり～市民の一生に寄り添う都市政策～」でありました。

現下の日本は人口減少や少子高齢化の急速な進展に伴い、社会の担い手不足が深刻化し、社会保障制度についても負担増が懸念されています。

特に2000年に始まった介護保険制度については利用者が当初の200万人台から現在は700万人台となり、介護人材不足や保険料の負担増は国をはじめ各自治体そして住民にとって深刻な問題であり将来像が見通せない状況に見えます。

このような社会情勢のなか、「誰一人取り残さない」、市民の一生に寄り添う都市政策としての健康づくりを進めていくために、地域の事情や時代の変化に合わせて全国の自治体の特色ある取組を聞くことが出来ました。

特にデジタル技術を活用した姫路市の取組を開催地の姫路市長から、そして都市そのものを健康にするまちづくりとして「ストレスを軽減しリフレッシュできるまち」の取組を千葉県流山市長から聞くことが出来て、自治体が果たす役割や課題についても学ぶことが出来ました。

WHOの唱える従来の保健・医療分野だけで個人ごとの健康増進を図るのではなく、生活環境や地域社会、学校や企業など都市のあらゆる分野を視野に入れた取組により、そこに住む人々の健康で豊かなくらしを作っていくという、時代に即した報告は長久手市の特長である「ベッドタウン・若いまち、これから高齢化を迎える」という現状を鑑みると、自治体としてこれから何を果たすことにより市民が将来不安を抱えず「健康」に一生を生きていけるのか解決のヒントを得られる会議であったと思います。

全国市長会主催の会議ということで、北海道から鹿児島県までまさに全都道府県内の市長はじめ担当職員そして議会議員1,800人が一同に集った会議でした。各県の市長会職員の参加は国の全国一律の制度に対する問題点を、ボトムアップで国民のために国に届けることが出来るのではと大いに期待したいと思いました。

(次ページ：2日間の写真) ➡

